

Library News



京教図書館 News

2006

1

トピックス

★ 1月の講習会 ★ 図書のお返しをお忘れなく！

■ 私のすすめるこの1冊・・・上田 博之（美術科 教授）

篠田 桃紅 『桃紅えほん』

題名「桃紅えほん」としているのは、「自分のしごとは、絵そらごととつねづね思っているからだといひ、そら、とはくう（空）だから、広大無辺、ほんとうはどんなものかは、とてもはかり知れない。その、絵そらごとだから、思いのままなどというかたちはできず、ころごしの絵もかけない。相手がくう、そら、だから、はてしない」と。この本は墨、銀、白、朱、金の世界に随筆が添えられたものであるが、「①抽象」「②文字」の2冊がセットで帙にはいつている。

墨象画家、書家、版画家、随筆家などそれぞれ異なった肩書きがつけられているがその根幹には常に「篠田桃紅」というアーティストが存在している。この「①抽象」を開くと、作品とその白地と関わりあつて文があり、作品に目がいくと文章に、文章を読むと作品にと巧みにレイアウトされ、デザインされている。作品についてはすでに多くの鑑賞家や評論家達によって解説出版されて、その色や形については知ることができる。が、その美しさだけは、どうしても自分の目で見るほか捉えようがない。見ることは人間と作品（対象）との関わりであり、生きている姿である。このことは作品は文章で描けないものを、文章からは作品になしえなかったものがあり、互いに影響し合っていることを実感させる。その作品と文章は形は違うが、一本の線に一行の文に一瞬の生を見いだす。

「②文字」は作品と作品の中間に随筆がまとめられている。無言劇、へんな字、半紙のはなし、桃紅水墨、みちびき、といったタイトルが並んでいる。その語りの中には、すさび、宿命、あわれ、なかば、出逢い、自然の手、といったような言葉を見いだすが、どこか、心をいとおしむような文である。「心のかたちを表現したいという希い、ひとが書くというしぐさは祈りに似た孤独があると思う」という言葉に接するとおのずから作品のページを往き来し、そのたびに心は揺れる。「桃紅えほん」の文に接すると、その人の品位に裏付けられて作品も文もできていることを改めて実感する。

ちなみに、戦後いち早く女性アーティストの先駆として海外で高い評価を受け、92歳の現在も、第一線の作家として国内外で活躍している。昨年11月末、井上靖文化賞を受賞したが「今まで賞を辞退してきた。今回も辞退したい」との報道があった。

更に関心がある人は、半世紀の間、折々に新聞や雑誌の小文を集めて出版された自伝的エッセイ集成『桃紅-私というひとり』は、本人が書くつもりはないのにできた「自伝」的エッセイ集であるが“肌触りをいとおしむような”文体に接することができる。



著者：篠田桃紅 出版社：世界文化社価格 ISBN：4-418-02505-7 出版年：2002年 ¥6,930（税込） 購入手続中
（参考図書）『桃紅-私というひとり』 出版社：世界文化社 ISBN：4-418-00526-9 ¥2,310（税込）

■ 図書館のニュース

1. 1月の講習会

* 事前申込み不要です。開始時間までに直接図書館カウンター前にお越しください。*

論文検索・収集法講座

データベース CiNii を使った雑誌論文の検索から実際の入手方法まで、パソコンを使って実習形式で説明します。

日時: 1月6日(金)16:20-16:50、 1月12日(木)14:35-15:05、
1月16日(月)14:35-15:05

電子ジャーナル講習会

パソコンから読める雑誌=電子ジャーナルの利用方法について説明します。(日本国内の電子ジャーナル=CiNii については、一部論文検索・収集法講座と内容が重なります)

日時: 1月10日(火)16:20-16:50、1月18日(水)10:30-11:00

2. 図書の返却をお忘れなく!

冬季休業中の長期貸出(今年は学部学生のみ)資料の返却をお願いします。返却期日は1月12日(木)です。期日を過ぎると罰則がかかり、遅れた日数分の貸出ができません。お手元に残っていないか今一度ご確認ください。

3. SCOPUS (スコーパス) トライアルの期間が延長されました

~2006年12月まで!~

Scopus は、科学・技術・医学・社会科学分野を中心としたエルゼビア社提供の新しい情報検索サービスです。エルゼビア社を含む 4,000 以上の出版社が刊行する 14,000 誌以上の学術雑誌から、2,700 万件以上の抄録を収録し、毎年 110 万件以上が追加されているデータベースです。また、国内のタイトルも 400 以上収録されています。図書館 Web サイト (<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>) または、直接スコーパスのサイト (<http://www.scopus.com>) からご利用ください。

4. 教員寄贈図書のご紹介 (平成17年1~12月受入分)

本学教員の方々より、著書をご寄贈いただきました。どうもありがとうございました。

教員発刊コーナーまたは大学発刊コーナー (いずれも図書館1階ホール) に配置しています。

どうぞご利用ください。(所蔵不明の場合はカウンターまで)

- 英文・太田耕人 先生「グローブ座におけるエリザベス朝演劇の舞台空間と上演の研究」
- 英文・奈倉洋子先生「日本の近代化とグリム童話：時代による変化を読み解く」
- 音楽・田中多佳子 先生「ひびきかたちそざい：東西の改良楽器をめぐって：柘植元一教授企画楽器展」
「近現代アジア・オリエント文化圏における音楽伝統の継承と変容」
- 家政・後藤景子 先生「環境適応型洗浄システムの開発のための洗浄力評価法の検討」
- 教育・松井仁 先生「教師の学習把握スタイルの評価と力量形成の支援システムの構築」
- 教育・堀内孜 先生「学級編制と地方分権・学校の自律性」
- 国文・森山卓郎 先生「コミュニケーションの日本語」「本当はおもしろい文法のはなし」
- 国文・浜田麻里先生「母語学習と人材育成：「友達」はいらない：但是我想要「朋友」
- 社会・香川貴志 先生「バブル期以降における分譲マンション供給の都心回帰現象がもつ意味」
- 社会・山下宏文 先生「「エネルギー」を語る 33 の視点・論点」
- 社会・田岡文夫 先生「演習マクロ経済学」
- 社会・武田一郎 先生「日本沿岸の砂礫堤高度と後氷期前進の海水順上昇量」
- 体育・井谷恵子 先生「初等教科教育におけるミニマムエッセンシャルズに関する研究：授業計画・指導案作成の位置付けと内容」「体力づくりからフィットネス教育へ：アメリカの体育教育と身体づくりへの責任」
- 体育・山下秋二 先生「スポーツマネジメント：図解」
- 発障・田中道治先生「「三つ子の魂百まで」再考：脳の発達及び社会政策から」
- 発障・冷水來生 先生「言語発達障害児におけるサイン言語の獲得しやすさに及ぼす認知的要因に関する研究」

■美術・村田利裕 先生「アート教育を学ぶ人のために」

■美術・石川誠先生「美術館教育普及担当者向け質問紙」「学校における図画工作・美術科教科担当者向け質問紙」「これからの鑑賞教育：美術を身近なものにするために、学校と美術館がいま、できること」

■理学・伊吹紀男 先生「多原子分子の位置選択的内殻電子励起と緩和ダイナミクス」

■理学・沖花彰 先生「中学校における理科と体育を融合した新しいカリキュラム開発の研究」研究報告集」

■理学・広木正紀 先生「身近な自然の「資源としての面」への気づきを促す、系統的な環境教育教材群の開発」

■理学・坂東忠司 先生「巨椋だいすき!!：巨椋池干拓地環境保全ワークショップレポートマンガ」「私の好きな木：あなたも木と話してみませんか?」

■理学・村上忠幸 先生「興味・関心の高まりを意図した探究過程モデルの構築と教材・プロセスの開発」

■教育センター・浅井和行 先生「放送教育をかえる」

■ 論のくちび理のむすび・・・内田 利広（教育学科 助教授）

（本学の先生方が執筆された論文や著書を自らご紹介いただくコーナーです。毎号掲載予定。）

“荒れ”の【原因】・【経過】・【終息】プロセス

内田 利広、樋口 肇：京都教育大学紀要 No.107 31-46頁、2005

京都府下の中学校における19事例におよぶ「荒れ」の現象について調べたものである。荒れに対するインタビューから、その原因・発端・経過・終息についてまとめた。

原因については、小学校での学級崩壊の経験がある場合が多かった。これは、小学校段階での教師や大人に対する不信感が高く、教師との良好な人間関係を築いてこれなかったという背景があると考えられる。その中で、核となる生徒が、教師への反抗を強め、教師の指導を乗り越えることになる。さらにその中には、ADHDなどの発達障害の可能性のある生徒もいる。中学校での荒れの要因を早期に見つけるには、小学校での経験を知る小中連携のあり方や発達障害への支援の問題も大きいと思われる。

荒れの発端となる行動は、核となる生徒の少しの服装や頭髮の違反などによる教師への反抗である。この段階で教師がきちんと指導できると、事態はそれほど広がらないが、その対応が不十分で中途半端になると、行動がどんどんエスカレートして、校内で堂々と喫煙やエスケープが見られるようになる。教師への不信感が高ければ高いほど、その生徒と人間関係を作ろうと、生徒に話っていく姿勢が必要となる。

荒れを終息させていった取り組みを見ると、「毅然とした態度」も必要であるが、基本的には生徒のことを理解しようとひたむきに取り組む教師の関わりが、結果的には生徒たちの教師への信頼を回復していくようである。また、それは担任一人だけでできるものではなく、学年主任、生徒指導主任を中心として、学年体制、学校体制として取り組み、ひとつの方針に沿って、協力・連携しながら取り組む必要がある。また、これらのプロセスを通して、常に保護者との連携、信頼関係作りが重要なキーポイントになることも示唆された。

博物館訪問記 唐澤博物館

唐澤博物館は日本教育史の大家・唐澤富太郎博士（1911年－2004年）が1993（平成5）年に創設された博物館である。筆者は2005（平成17）年9月に同館を訪問した。この博物館には、実物による日本教育史研究を志された博士が収集された教育史資料が多数展示されている。

1階には、1872（明治5）年の学制に始まる近代日本の教育の歩みを辿る。お雇外国人リーランドにより導入された球竿・亜鈴・棍棒が展示されていた。唐澤博士は当時の体操教具の“花形三点セット”だとおっしゃっていたそうである。次に見たのは「ガラス絵」。「へそで茶を沸かす」「木で鼻をくくる」等の諺を幻燈で教える時に用いたものである。成績優秀な児童への賞状が多数展示されていた。賞として教科書が授与される場合も多かったが、「桑苗木三本」が賞として授与されたことを示す賞状があり、大変興味深かった。

2階は寺子屋内部の様子を再現していた。寺子屋では“読み書きソロバン”が教えられていたというのが、絵を描くことを教えていた寺子屋があったことを示している展示があった。2階には、文具や玩具の展示も多数あった。硯で墨をする時に水を注すのに使う小さな容器「水滴」が何種類も展示されている。時計型などいろいろな形があり興味深かった。同じものでも各時代のものいろいろな種類のを並べると、また興味が湧いてくる。3階には日本人が暮しで用いた民具が多数展示されていた。

何度、この博物館を訪ねても興味は尽きないと思う。訪問当日には唐澤博士の三女・唐澤り子様から詳細に解説をしていただいた。記して感謝いたします。（情報管理係長 菅 修一）

※裏面に参考事項を記載しています。

■ 図書館開館スケジュール

(通 常)
開館時間 : 9:00
閉館時間 : 21:00
 一部期間は17:00に閉館します。
 下記カレンダー「~17:00」と記載

2006 1 平成18年

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
1	祝	2	休	3		4		5		6		7	
	休館		休館		休館		休館		~17:00				~17:00
8		9	祝	10		11		12		13		14	
	休館		休館										~17:00
15		16		17		18		19		20	試	21	試
	休館										休館		休館
22		23		24		25		26		27		28	
	休館												~17:00
29		30		31									
	休館												

1 / 2 0 (金) は、館内整理のため休館します。
 1 / 2 1 (土) は、入学試験のため休館します。

2006 2 平成18年

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
						1		2		3		4	
													~17:00
5		6		7		8		9		10		11	祝
	休館												休館
12		13		14		15		16		17		18	
	休館												~17:00
19		20		21		22	整	23		24		25	試
	休館						休館						休館
26		27		28									
	休館												

2 / 2 2 (金) は、館内整理のため休館します。
 2 / 2 5 (土) は、入学試験のため休館します。

ミニ展示企画「塩野直道関係著作展」報告

本学非常勤講師・松宮哲夫先生から資料をお借りし、展示目録に論文をご執筆いただき、緑表紙算術教科書の生みの親である塩野直道に関する標記展示を平成17年12月1日から12月27日まで開催した。この展示企画は「数学セミナー」(2005年12月号)、「朝日新聞」(11月28日)、「読売新聞」(12月9日夕刊)、「京都新聞」(12月20日)に各々報じられた。この報道があったので、全国的な反響があり、研究所・教員養成学部教員から問い合わせがあり、展示目録も増刷するほどであった。塩野が校長を務めた金沢高等師範学校で塩野から薫陶を受けた同校卒業生が見学を訪れた。戦後、塩野が教科書作りの職場となった啓林館からは森田部長と池田課長が展覧された。緑表紙の絵を研究しておられる愛知県・江南女子短期大学の阿部紀子教授からはメッセージとともに阿部氏が執筆された関係論文掲載資料を寄贈いただいた。学内では数学科学生を中心に多くの学生が参観した。熱心に何回も足をはこび塩野の考え方に少しでも触れようと展示されている塩野の論文や講義記録の展示頁を熟読し感銘を受けたという学生もいた。学内外各所との活発な交流が図ることができ有意義な展示会であった。(情報管理係長 菅修一)

京都市立中学校「生き方探求・チャレンジ体験」に協力

1月30日から12月2日までの3日間、深草中学校の2年生2名が図書館で勤労体験としてカウンターでの貸出・返却、書架の整理等の作業を行った。

唐澤博物館について

所在地：東京都練馬区豊玉北3-5-5 西武池袋線・桜台駅より徒歩12分都営大江戸線・新江古田駅より徒歩12分
 電話：03-3991-3065 開館日時：電話予約制
 入館料：一般700円 中学生300円 小学生200円

文献①唐澤富太郎著『図説明治百年の児童史』上・下巻 講談社 1968年9月[本学所蔵あり]により、唐澤博士所蔵資料の一端を知ることができる。文献②唐澤富太郎著『執念：私と教育資料の収集』講談社 1970年[本学所蔵なし]は唐澤博士の教育資料収集の実際が語られている興味深い本である。

京教図書館 News No.64 2006年1月号 編集発行：京都教育大学附属図書館

発行日：平成18年1月4日 内容に関するお問い合わせ先：附属図書館(内線8176)